

家篤兒藥性論 二 一 十七



和書門			
類	三〇三〇	函	三二七
架	八	冊	一八

庫文閣内	
和	三〇三〇
九	一
内閣文庫	
番號	和 30310
冊數	18 (17)
函號	195 293



Kodak Gray Scale

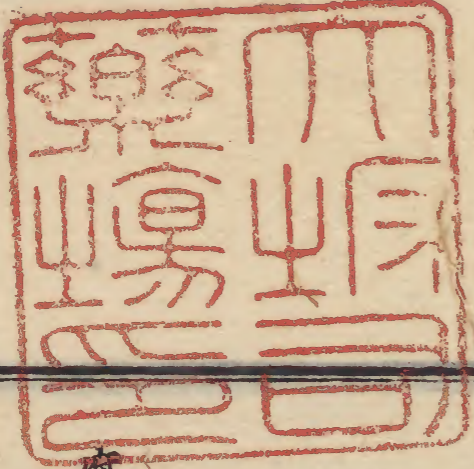
A 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



© Kodak, 2007 TM: Kodak



第二一號



方

家篤兒藥性論卷二十目次

○引赤發泡腐蝕劑

芥子 ○芥子泥

沙萊腹

瑞香 ○瑞香皮膏

芫菁 ○芫菁膏

腐蝕藥二屬スル者

醇鑛酸

枯礬

刺必斯加烏秩屈斯

家篤兒藥性論

卷二十



宓篤兒藥性論卷二十目次

硝酸銀
安質母尼酪
白砒石
○烏私多蒙度砒石液
○箇斯默フルエ散
○砒石液

○美青膏
○滋香丸
○香膏
○香膏

宓篤兒藥性論卷二十

和蘭 漢侄 宓篤兒 著
洞海林 彊健卿 譯補
引赤發泡腐蝕劑
○チカ
○カウ
○エ
○チカ
○カウ
○エ
引赤發泡腐蝕劑三劑其效能各同
カラザルカ如赤ト雖固ヨ其藥性ハ
階同一ニメ唯其異ナル所ハ藥力ノ強

天馬記藥性論 卷二十

弱微甚ニアレハ故ニ約メ一篇ニ收
ムト云フ○引赤劑之ヲ皮上ニ貼ス
レバ其刺戟ノ猛勢ニ因テ其部赤色刺
痛シ輕焮腫ヲ發スルナリ而メ其藥力
亦尚除カズ綿々留連スル片ハ刺衝愈猛
ニメ焮腫愈劇シク終ニ湯乙液滲出メ
表皮泡腫ス是ヲ發泡法ト謂フ腐蝕藥
ハ少シク之ニ異ナリ之ヲ貼スル其
部翹ニ大焮腫ヲ發スルノミナラズ更
ニ死肉トナリ遂ニ膿潰溶崩シ以テ生

肉ト分離ス○引赤發泡劑ノ用法ニ般
アリ一ハ局處ニ係リ一ハ全身ニ係リ
其局處ニ係ル者ハ内部要地ノ病毒ヲ
抱テ外部不貴ノ地ニ引出スルニ用井
又大ニ其部ノ官能ヲ提起スルニ用ウ
諭ヘバ麻痺慢性寒腫等ニ用ウルカ如
シ又胃痙痙攣吐瀉痛泄瀉痢病痙攣性
ノ喘息百日咳等ノ如キニ用井テ鎮痙
ノ效ヲ奏スルモ亦局處ニ係レルナリ
其全身ニ係ル者ハ生力沈垂ヲ奮起ス

ルニ用ウ。即チ一種ノ神經熱ニ、確然タル
 偉効ヲ呈スルカ如キ是ナリ。○腐蝕劑
 ハ創傷ノ贅肉、疣贅、痛風結腫ヲ消除シ、
 腐敗瘍及ヒ毒獸咬傷ニ貼メ之ヲ淨潔
 シ、小肉瘤、豚肉腫ヲ消除シ、腫瘍ヲ破開
 シ、強打膿ヲ造ルニ峻效アリ

芥子 モセミナ、シ子、ピオス、羅
モスタール、ドサード、蘭

芥子ノ性效ハ既ニ揮發衝動劑篇ニ詳說セリ、
 故ニ此ニ贅セス、但之ヲ外用スレハ能ク赤色
 焮衝ヲ誘スルヲ以テ、引赤劑トナスニ堪タリ

其法芥子ヲ研末メ、水或ハ醋ト蒸餅心或ハ蒸
 餅母ヲ加ヘ、芭布トシ温メ貼ス。○芥子泥ヲ貼
 スルノ部ハ、疾患ノ所在ニ就テ各同シカラス、
 頭痛謔語等ニハ、項若クハ膈ニ貼シ、咽喉焮腫
 ニハ頸ニ圍繞ス。又儂麻質私性ノ焮衝要地ニ
 發スル者ハ、差其部ヲ距テ之ヲ貼シ、以テ導搜
 劑トナス。○奮起衝動ノ效ヲ要スルハ、直チニ
 患部ニ貼スベシ。即チ麻痺病ニハ其部ニ貼シ、痙
 攣搐掣等ニハ皮下ニ神經ノ最近密ナル部ニ
 貼スルカ如キ是ナリ。○芥子泥ノ效ヲ猛ナラ

本草綱目卷之二十一
 芥子

シメント要セバ。芫菁丁幾。沙羅朮等ヲ加フベシ。但其效愈劇烈ナラン。一ヲ要セバ。粗末ノ芥子ヲ水ニテ捏シ置ク。少時ニメ泥ヲ造ルニ如クハナシ。

沙羅朮 ペラド、パルク、レアル、アルモラシア

揮發衝動劑篇ニ出セリ。○性效芥子ニ同シ。

瑞香 コルテキス、メゼレ、ペイ、ペルボーム、ピ、蘭

林氏ノ所謂ダブ子、メゼレウハ皮ナリ。其形薄クメ柔靱線條アリ。外面綠色。内面黃白色。臭ナク味太辛刺ス。瑞香ト稱スル者ニメ和名オハ白

コシヨウノキト云々。○外敷メ引赤發泡ノ效アリ。又能ク膿瘍ヲ造ル。此皮若シ乾固セル者ハ用ウル。片一夜醋ニ漬シ。軟和ナラシメ。皮

ノ内面ヲ貼シ。硬膏ヲ以テ其上ヲ覆ハシ。漸ク丹毒様ノ焮腫ヲ發シ。終ニ表皮泡腫メ。洩レ液ヲ充ツ。或ハ始メ芫菁膏ヲ以テ發泡。泡皮ヲ剥脱メ。瑞香皮。瑞香膏ヲ撰ミ用ウルモ亦良シ。但始メハ其ニ廿二次更メ貼シ。膿瘍已ニ成ルニ至ルバ。一日毎ニ更へ貼シ。佳ナ味。○效力猛ナルニ因テ。間ニ全身ニ劇キ丹毒性ノ焮腫ヲ發

スルヲ閉リ。久ク打膿法ヲ施シ。皮膚病刺衝
シ膿液ヲ分泌スレバ。一以内部ノ病ヲ導拽シ。
一ハ其分泌ニ由テ。他ノ分泌機ノ病ヲ受ル者
ヲ防キ。以テ慢性諸病ニ殊效ヲ奏ス。即其效ア
ル者ハ慢性緩久ノ皮膚病。局處ノ癩。麻質私病。
痛風。如キ是ナリ。又肺勞ニ用非テ。其料ニ勞
病トナラントスル者ハ固ヨリ論ナシ。已ニ癩
病トナル者モ。其進歩ヲ攔駐スルニ良效アリ。
余嘗テ少年ノ勞瘵ニ。胸部ニ瑞香皮膏ヲ以テ
大打膿法ヲ施シ。久シク瘡サフシメ。竟ニ良效

ヲ収メリ。蓋此症ハ胃寒治ヲ怠ルヨリ成ル者
ニメ。真ノ肺勞ニハアラズ。○瑞香皮若クハ瑞
香皮膏ヲ貼メ。打膿ヲ持久セシムレバ。經年ノ
潰瘍ヲ治スト雖。害ヲ發スルコトナシ。○内用メ
延年ノ癩毒及痛風ヲ瘳ス。殊ニ癩毒性ノ骨痛
ニ痛風ヲ狹ム者ニ偉效アリ。此症ニハ木類煎
ニ加ヘ用ウ。其效發汗ニ在リトス。然レ大量ニ
用ウレバ劇甚ノ腹痛嘔吐下血至。若腸胃激衝
ノ如キ峻症ヲ發シテ。死ニ至ルコトアリ。此ニ注
意メ。誤用スルコト勿ラシムヲ要ス。○瑞香毒ヲ

メ瘡疹發出セサル者内陷ノ恐レアル者或ハ
已ニ内陷セル者或遺孽病論ヘバ骨節焮衝胸
病眼病等ニ良效アリ

第三 麻痺慢性神經病四肢ノ麻痺ハ勉メテ麻部
ノ神經行道ニ從テ貼スベシ中風就中粘液中
風神經中風ハ毛髮ヲ剝除シテ頭上ニ貼シ遺
尿ハ薦骨ノ上黒障眼ハ前額ニ貼スヘシ

第四 水腫凝体ノ官能萎衰セルヲ提起シ吸收機
ヲ變理スルニ由テ開水腫ニ大效ヲ奏ス殊ニ
經久ノ潰瘍乾癩ノ後或ハ皮疹内陷ニ由テ發

スル所ノ水腫ニ尤良效アリトス○惡液質家
ノ者ハ大ニ謹慎メ用ウヘシ何者此ノ如キ者
ハ之カ為ニ焮衝ヲ發シ尋テ險症蜂起シ或ハ
壞疽ヲ生シ終ニ斃ルニ至ルコトアレバナリ

○其二導拽劑トシ用ウ
第一 焮衝病先瀉血ヲ施シ消焮藥ヲ与ヘテ其劇
勢已ニ退キ糞液滲出ノ恐アル者焮衝慢性ニ
轉セントスル者ニ效アリ

第二 慢性焮衝殊ニ聖京倭性或ハ儂麻質私性ノ
者即慢性咽喉焮腫眼焮腫ニ效アリ又勞瘵ノ

慢性隱伏焮衝ヲ挾ム者。蓋勞病多ク、或骨節ノ慢性焮腫、膝ノ白腫、胯骨節ノ焮腫、産婦ノ白腫痛アル者、産婦ノ腹膜焮衝、痢病等ニ驗アリ

第三 痺麻質私痛風ニ效アリ。但シ焮衝ト熱ト未退カサルノ間ハ、之ヲ用井テ害アリ。然レ熱已ニ退キ、焮衝慢性ニ轉スル者ハ、缺ベカラサルノ要藥タリ。又胯痛ニハ膝ノ外面ニ貼シ、痺麻質私性ノ顔面痛ニハバンアリス神經ニ貼シ、齒痛ニハ耳下或ハ耳ノ前後或ハ頸ニ貼メ尤良效アリ

第四 呼吸器ノ經久慢性痺麻質私ニハ、肩脚間ニ貼スベシ

第五 皮病、痛風、脚痛風等ノ内攻セル者ハ、曾テ其病ニ嬰リシ部ニ貼スベシ

第六 經久ノ皮病諸液ノ苛烈ナルニ由リ、持久メ瘡エザル者ニ良ナリ

○其三八淨潔劑、釀膿劑トシ用ウ○狂犬咬傷ニハ恐水ヲ防治セ、ンカ為ニ、芫菁末ヲ創口ニ撒シ、或ハ芫菁膏ヲ貼スヘシ。潰瘍經久ニメ持病トナル者將ニ癒ントスル片、其ヲメ癒サラ

シムルカ為或ハ惡臭稀涼ノ敗血漿ヲ分泄ス
ル者ニ貼ス。又囊瘤ヲ蝕除スルニ用ケルナ
リ。○芫菁ノ泌尿器ニ害アルハ、已ニ内用ノ條ニ
説ケルガ如ク、外用モ亦異ナルナシ

○芫菁膏

芫菁ヲ外用スルノ方、硬膏ヲ佳ナ

リトス。其方局方諸書ニ記載セリ。茲ニ舉ル所

ノ者ハ、白耳義藥局ノ方ナリ

黃蠟ハ 松脂

諸各 家猪脂清淨者

右四味溶和シテ放冷シ、芫菁ハ弓ヲ混和ス

補

打膿軟膏

オイベンホウデン

墨林騏舎密書ニ曰、房非兒云予數年来、打

膿軟膏數方ヲ造ル。或ハ芫菁ヲ阿列襪油ニ

熱浸シ、或ハ家猪脂ニ煮、或ハ水煎シ、或ハ酒

煎シ、膏ヲ作り試ミルニ、其效共ニ良ナリト

雖、其力一定ナラス。故ニ今左ノ方ヲ造ル。方

芫菁

新鮮者搗テ粗末

亞爾箇兒五

右二味、先冷浸スル。十二時ニメ、重湯ニ煎

スル。一時半、放冷メ、子細ニ絞リ瀝シ。又其

液ヲ瀝過シ、左ノ軟膏中ニ加フ

家猪脂新鮮者 右二味先
 溶解シ、放冷ノ將ニ凝結セシトスル時、芫菁
 液ヲ混和シ、次ニ又左ノ品ヲ加フ事ニ至
 龍腦三錢 阿列襪油適宜 右油ヲ以
 テ龍腦ヲ溶化シ、法以如ク膏中ニ混和シ、予
 細ニ攪拌シ、膏全ク冷ヘテ白色トナルニ至
 ル○此方ハ其效常ニ増減變化スルナク、
 打膿ノ間、焮衝其他ノ諸症ヲ發スルナシ
 ○腐蝕藥ニ屬スル者
 醇鑛酸ゲコンセンテレールデ、ミ子ラール、シレール、シレール

収斂劑篇ニ載スル所ノ諸鑛酸皆之ニ屬ス○
 水液ナルヲ以テ、腐蝕ニ供用スルニ便ナラス
 枯礬アリス、ラマン、ユスタ、アロイン 蘭
 明礬條下ニ出セリ
 刺必斯カウ、ス、カウ、ス、ナ、カ、○ 蘭
 ハ羅ベール、テン
 剥萬亞斯ノ條下ニ出セリ
 硝酸銀ニトラス、アルゲンチ、○ニトラス、アルゲ
 羅サル、ヘル、セ、ステ、イン、シ
 形圓柱ノ如ク、大サ筆管ノ如ク、長短齊シカラ

灰色或ハ灰黑色臭ナク。悍烈侵蝕スル鑛味
 アリ。破碎スレバ光輝アル小芒ヲナス。能ク水
 ニ溶化ス。○腐蝕ノ一良藥タリ。殊ニ創傷ヲ贅
 肉ニハ少許ヲ水ヲ以テ硝酸銀ヲ濕シ。頻々肉
 上ニ觸ルレバ。能ク贅肉ヲ消除ス。又癰毒瘍殊
 ニ下疳ノ燃衝太シカラザル者ニ。淨潔藥トシ
 用井テ良ナリ。痛瘡ニハ多量ノ水ニ溶化セル
 者ヲ以テ。射注劑トシ用井テ。能ク之ヲ治ス。○
 硝酸銀ハ収斂性ノ者ナルヲ以テ。腫瘍ヲ破開
 スルハ。刺必斯加烏蟄屈私ヲ勝レリトス。凡ソ腐

蝕藥ヲ以テ腫瘍ヲ破開スルノ法。先綿布二片
 ニ硬膏ヲ攤シ。其一ハ正中ニ適宜ノ孔ヲ穿テ。
 腫瘍上ニ貼シ。腐藥ヲ孔中ニ填メ。又其一ヲ以
 テ其上ニ固貼シ。腐藥ヲメ動クナカラシム。
 若シ腐藥ノ亂散シテ。傍邊ハ良肉ヲ害スルノ
 恐レアル者ハ。細織ノ硬膏布ヲ以テ。孔圍ニ小
 堤ヲ作レバ。則亂散ノ憂ヒナシ。已ニ之ヲ施ス
 下法ノ如クハ。後數時ヲ經テ之ヲ除キ去レバ。
 其痕死皮ヲ生ス。即直下ニ其皮ヲ截開シ。或ハ
 緩和疔布ヲ貼シテ。死皮ヲメ自ラ剥脫セシム

○硝酸銀及硝酸銀晶
キトラス、アルゲンチ、
ニトラス、アルゲンチ、
ハ、共ニ其性腐蝕
ノ大毒アリト雖亦内用ニ供メ殊ニ癩癩ニ稱
用ス。然氏之ヲ用ウルニハ、大ニ戦兢畏驚スヘ
ク、又極メテ稀薄ニセサレバ用ウルトテ許サ
ズ。即チ一ハヨリ一ハ半ヲ以テ清水六ヨリハ
テニ溶化シ、毎服一食匙日ニ四次、但硝酸銀ノ
量ハ、四分ハ一ヨリ、漸ク増シテ半ハニ至ル
ヘシ。○硝酸銀ヲ内用スルニハ、亞爾加里、硫酸、
鹽酸、酒石酸、石鹼、收斂性植物ノ浸劑等ヲ配用

スルヲ忌ム
 安質母尼酪
ニトラス、アルゲンチ、
ハ、共ニ其性腐蝕
ノ大毒アリト雖亦内用ニ供メ殊ニ癩癩ニ稱
用ス。然氏之ヲ用ウルニハ、大ニ戦兢畏驚スヘ
ク、又極メテ稀薄ニセサレバ用ウルトテ許サ
ズ。即チ一ハヨリ一ハ半ヲ以テ清水六ヨリハ
テニ溶化シ、毎服一食匙日ニ四次、但硝酸銀ノ
量ハ、四分ハ一ヨリ、漸ク増シテ半ハニ至ル
ヘシ。○硝酸銀ヲ内用スルニハ、亞爾加里、硫酸、
鹽酸、酒石酸、石鹼、收斂性植物ノ浸劑等ヲ配用

白色微透亮ニシテ質半酪ニ似タリ、風ヲ見テ黃色トナル。○效用自餘ノ腐藥ニ同シ。然氏温會テ流動ス。故ニ傍邊ノ良肉ヲ害シ。却テ其效ヲ本地ニ逞クスルヲ鮮シ。

白砒石
セオキシ、アルゲンチ、
ハ、共ニ其性腐蝕
ノ大毒アリト雖亦内用ニ供メ殊ニ癩癩ニ稱
用ス。然氏之ヲ用ウルニハ、大ニ戦兢畏驚スヘ
ク、又極メテ稀薄ニセサレバ用ウルトテ許サ
ズ。即チ一ハヨリ一ハ半ヲ以テ清水六ヨリハ
テニ溶化シ、毎服一食匙日ニ四次、但硝酸銀ノ
量ハ、四分ハ一ヨリ、漸ク増シテ半ハニ至ル
ヘシ。○硝酸銀ヲ内用スルニハ、亞爾加里、硫酸、
鹽酸、酒石酸、石鹼、收斂性植物ノ浸劑等ヲ配用

酸化砒石ハ獨乙佛郎西等三生不然氏又
 砒石鑛殊ニ錫鑛拾拔爾多鑛ヲ煇製ハ得ルナ
 リ世間通シ白砒石ト云○酸化砒石ハ白色堅
 重透亮ナラズ破碎シ易ク破碎スレハ光彩ア
 リ水ニ溶化シ易ク火ニ投スレバ白煙ヲ發ス
 烟氣大蒜臭ノ如シ又琢磨シタル金類ヲ以テ
 此烟ニ觸レレバ白斑ヲ生ズ烙銅板上ニ砒石
 ヲ投スレバ銅板ニ黑點ヲ生メ除クヘカラス
 ○砒石ハ最大毒藥タリ故ニ内外ニ用井テ大
 ニ人体ヲ毒ス極少量ヲ與ヘテ吐瀉昏暈痲不

遂ク發シ大量ヲ與フレバ腸胃大激衝ヲ發シ
 險逆ノ諸症陸續蜂起メ立地ニ斃ル其激衝ヲ
 發スルヤ始メ胃劇痛シ食道灼カ如ク大渴引
 飲尋テ其痛腸ニ波及シ脉細遲不齊ニメ便ニ
 臨ンデ酸痛努墜シ腐臭聞カラサル物ヲ下
 泄シ小便血ヲ交ヘ顔色蒼白ニシテ全体冷汗
 ヲ流シ皮膚赤斑ヲ發シ四肢劇痛メ終ニ知覺
 ヲ失シ又痲痺シ呼吸短息且煩悶シ呻吟メ休
 マス頻ニ昏眩シ生力大ニ脱耗メ乃死ス○砒
 石ノ大害アルハ已ニ此ノ如シ故ニ之ヲ用ウ

ルニハ、小心翼々輕忽ニスベカラザランコトヲ
要ス。若シ之ヲ服メ毫髮タモ藥害ノ徵ヲ覺知
セハ、神速ニ後服ヲ停メ、微温湯乳汁亞麻仁乳
阿列襪油等ヲ多量ニ與ヘ、以テ吐ヲ得ルニ至
ルヘシ、勿擲祭亞石鹼溶劑、石灰水等ハ、消毒ノ
最良藥タリ、就中石灰水ハ能ク砒石ト緻密ニ
親和メ、其毒性ヲ禁固ス、故ニ殊ニ良ナル已ニ
嗽衝ノ徵ヲ現スル者ハ、刺絡若クハ局部ノ瀉
血ヲ行ヒ、緩和琶布ヲ貼シ、緩和灌腸法ヲ施シ、
緩和粘滑油質ノ品ヲ内服セシメテ、以テ之ヲ

制伏スベシ。○砒石ノ人ヲ毒スル事此ノ如ク
大ナリト雖、往古ヨリ已ニ内外共ニ醫藥ニ供
セリ、其間歇熱、瘰癧等ニ稱用セシ秘藥ハ、凡テ
砒石ヲ以テ君品トセリ、而メ其之ヲ用ウル者
多クハ不學無術ノ徒タリ、故ニ其患害ヲ招ク
ト屢之アリ。○和蘭ニ於テモ古已ニ外用スル
者アレ氏、遂ニ癩ノ用井ス、數年前ニ至リテ、再
ヒ外用スルコトヲ始メ、能ク瘰癧ヲ治スルト云
然、和蘭ノ内外科ノ經驗說ニ據ルニ、或ハ效
ヲ得タリ、或ハ大ニ害ヲ發ストス、其詳說

吾醫學好學須見滿先生著スル所ハ砒石用法ニ記セリ○砒石ハ皮表癌腫ヲ治スト雖腺ノ癌腫ニ至テハ根治スルトナシ又鼻或ハ面部ニ發スル侵蝕癬良效アリ○外用ノ方數種アリ就中乙烏私吞蒙度各人方名尤高シ其方安質母扭ニ分砒石阿芙蓉各一石三味先上ノ二味ヲ坩鍋ニ入シ熔合シ研末阿芙蓉ヲ加シ刺歇彪列各人方
砒石石四清水水二右溶解シ用ウ又高名革私墨名入フルエレ散ノ方アリ其方

未砂ニ錢石四神履躡燒灰石八血竭石十二
砒石石四石四味散石八此方ハ輓近
及シテ歇石四而兒石八度君石十二クヲ極メテ癌腫ニ效
アルヲ稱ス然正唯皮表ノ癌腫侵蝕癬ニ效
ル○内用メ頑固ノ神經病ヲ治シ恐水病
ヲ豫防シ殊ニ頑固ノ神經病ヲ治シ間歇熱ニ
殊ニ砒石液ヲ稱用ス砒石液ノ製法白耳義
局方ニ載セタリ今収録メ茲ニ掲ク
○砒石液石四キオ石八アル石十二ホウ石十六カリ石二十ス
酸化砒石石四海味石八酒石鹽石十二各石十六六十石二十淨水石二十四

以上三味硝子壘ニ入ル重湯煎ニ温ク砒石十
 分ニ溶化スルニ至リ放冷メ刺賢テ堉兒精半
 斤ヲ淨水ハ加フ○此液二錢中ニ砒石一
 分ヲ含松○頑固ノ間歇熱ノ外用ウルヲ禁ス
 又頻服多用スヘカラズ若シ毫髮タリトモ瞑
 眩ノ徵アルヲ見ル直ニ後服ヲ停ムベシ○訶
 里兒名患者ノ年紀ニ從テ此液ヲ用ウルノ差
 等ヲ定ム
 一歲至四歲 每次二滴至五滴 日ニ二次
 五歲至七歲 每次五滴至七滴 同前

八歲至十歲 每次七滴至十滴 同前
 十三至十八歲 每次十滴至十五滴 同前
 十八歲以上 每次從十二滴 同前
 ○獨乙名國ノ大學師里布底兒名惡性間歇熱ヲ
 截ルニ大量ノ砒石ヲ與フルト說ケリ然レ
 和蘭ノ大醫名布涅爾ノ說ニ曰此方ハ里布底
 兒ノ如キ熟煉ノ老手患者ノ生路ヲ萬一二僥
 幸スル時ニ用ウル所ノ者ニメ誠ニ至危ノ
 方ナリ且小量ノ砒石ヲ以テ間歇熱ヲ截リシ
 者タモ尚屢水腫勞瘵内臟閉塞等ノ症ヲ續發

宗篤兒藥性論卷二十終

ノ終ニ死シ兒レサレ下レ問之アリ未熟ノ醫輩
用ウヘキ方ニアズ殊ニ近今規尼捏世ニ出
シヨリ其效無畏安行百發百中ナレハ人々復
砒石ヲ以テ截熱ニ供スルヲ廢セリ然リト
雖多ト篤ト氏ハ獨規尼捏效ナキ症ニノニ毎朝
夕砒石液五滴ヲ取テ之ヲ與フト云

宗篤兒藥性論卷二十終

宗篤兒藥性論卷二十附錄

補 孟偃設爾考

強按三本文中煎浸諸劑ニ并ハ用ウル所ノ
孟偃設爾劑ハ先輩ノ譯書中ニ未之ヲ見サ
ルヲ以テ初學ノ輩或ハ此劑ノ名義ヲ知ラ
サル者アラシ故ニ弗里設藥性論中ノ孟偃
設爾ノ条一章ヲ抄出シテ左ニ掲ク
弗里設藥性論ニ曰ク孟偃設爾ハ飲劑スハ
スス羅ス蘭ス冷飲劑クユラロム羅ユランキラ○擦劑
スリニメルル○羅吸劑クリンクスラノ總稱

宗篤兒藥性論 卷二十附錄

○越幾斯舍利別ノ如キ溶解スヘキ者ニ水
 液ヲ配合ス之ヲ飲劑ト云フ譬ハ左ノ方
 ノ如シ方一草ハ出ニテハニ
 接骨木花浸四寸 民侄列里精一弓
 舍利別半弓
 右三味調勻ス又方
 此酒石ニハ 加密列花水ニ弓
 舍利別半弓
 右三味調勻ス
 ○頑劑安質母尼劑亞鉛華ノ

如キ水ニ溶解セリル金石類ハ配合ヲ禁ス
 但阿羅比亞護漿舍利別ノ如キ者ト相和
 スレハ是モ亦或ハ飲劑トナスベシ
 ○啜劑ハ煉膏ト舍利別ノ間ニアリ内外共
 ニ供用スヘシ其品ハ美味ヲ藥材植物ノ粉
 末ニ蜂蜜屋施蔑兒舍利別粘漿卵黃軟華爾
 斯亞的兒油脂油拔爾薩摩子幾等ヲ和ス金
 石藥モ亦少量トナシ用ウルニ臨ンテ振盪
 スベシ譬ハ左ノ方ノ如シ方
 硝沙加泥子精一錢
 甘草膏一弓

本草綱目卷之二十一 附錄

苗香地 三斤 甘草膏 一斤

右三味調勻ス。又方 下ノ方

金硫黄 三斤 菲沃斯越藥斯 六斤

阿羅比亞護謨漿 半斤

右三味調勻ス。又方 下ノ方

○舍利別ト水液ヲ配合シ。時ニ亦植酸粘液

等ヲ加フル者之ヲ冷飲劑ト云フ。此劑ハ氣

味美ナルヲ貴ス。譬ハ左ノ方ノ如シ。方

過設印亞的兒 半錢 佛羅默 栗薩水 四斤

右三味調勻ス。又方 下ノ方

右三味調勻ス。又方

磷酸 一錢 蒸餾水 四斤

依爹子舍利別 一斤 過設印亞的兒 一

右四味調勻ス

○病皮下ニアリ。或ハ皮表ニアル者ニ直ニ

其部ニ塗擦スル藥之ヲ擦劑ト云フ。譬ハ

左ノ方ノ如シ。方 阿列襪油 四斤

硝砂加石灰精 一斤

右二味調勻ス。又方 迷迭香精 一北

白石鹼 二斤半

本草綱目卷之二十一 附錄

廣雅釋義

卷二十一 附錄

硝磺精

右四味調勻

龍腦各二錢

五、六、七、八、九

其有不盡者...

○散取...

本四和...

...
...
...
...
...

家篤兒藥性論卷二十附錄

